

地方創生に向けた教育の推進について

課題認識

- ① 三重県の人口は減少局面に入り、平成42年には、平成22年より、約20万人少ない165万人程度にまで減少すると推計されています。今後、戦略的な人口減少対策を進めることが喫緊の課題となっています。
- ② 特に本県の人口社会減の状況は、高等教育機関進学時及び卒業時の若者の県外流出が顕著で、今後、県内への若者の定着を図るための対策が求められています。(資料 2 - 2 参照)

地方創生に向けた三重県としての取組方向

三重県では、人口減少の課題に的確に対応するとともに、地域の自立的かつ持続的な活性化を図るため、今後 5 年間の基本的な取組方向を示す「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、あらゆる分野の施策を結集して、総合的な取組を進めることとしています。(資料 2 - 3 参照)

教育における基本方針 (「三重県教育施策大綱」(仮称)(最終案)より)

教育においては、「グローバル人材の育成」、「若者の県内定着の促進」の双方が求められていることをふまえ、「三重県教育施策大綱」(仮称)(最終案)の中で、地方創生の観点からの基本方針を次のとおり記述しています。

基本方針「(5)『三重ならではの』教育の推進」より

- 「三重ならではの」教育の推進においては、地方創生の観点に立ち、将来世界で活躍する者にも、郷土の未来を担う者にも、心の土壌としての郷土への思い、地域社会の発展に貢献する意欲、異なる文化を理解する態度等を育てていくことに意を用います。

主な取組内容

1 小中学校における「郷土への思い」を育む取組

■教材の作成・活用

- ・ 小学校社会科（主として3、4年生）で活用する地域教材を扱った副読本を23市町が作成し、地域の産業や働く人々の姿、地域の発展に尽くした人々の業績についての学習などが行われています。
- ・ 教材「三重の文化」、「ふるさと三重かるた」の活用を推進するとともに、三重に関わる教材である「ふるさと通信」に郷土の誇るべき先人の言葉等を取り上げるなど、教材の開発とその活用実践を推進します。（教育委員会）

■農林水産業体験から学ぶ取組

- ・ 四日市市や度会町では、伊勢茶の生産農家や製茶施設での見学・体験のほか、生産したお茶を販売する取組を行っています。
- ・ 鳥羽市や志摩市では、アサリ（ケアシエルと呼ばれるかき殻による浄化装置を活用）や真珠・かき・あおのりの養殖、伊勢えびの網漁についての体験を基に学習しています。
- ・ 鳥羽市では、地域で肉牛を育てる方に聞き取りを行い、食肉の生産に関わる苦労や工夫のほか、これからの課題などについて学習しています。

（教育委員会）

■四日市公害についての学習

四日市市では、「四日市公害と環境未来館」での社会見学を実施し、なぜ四日市公害が起きたのか、その後どういった経緯で青空を取りもどし、環境先進都市とよばれるようになったのか等について学習しています。

（教育委員会）

■地域の偉人についての研究

- ・ 歴史学習（小学校6年、中学校1、2年）とあわせて、地元とゆかりのある偉人（観阿弥、河村瑞賢、本居宣長、大黒屋光太夫、松尾芭蕉、九鬼義隆、松浦武四郎など）を取り上げ、図書館や資料館で詳しく調べたり、調べたことをみんなの前で発表したりしています。
- ・ 伊賀市では、俳句について学習し、芭蕉祭（10月）にあわせて、俳句づくりやそれにちなんだ劇・クイズなどを行い、俳聖・松尾芭蕉の業績や俳句の素晴らしさについて学んでいます。
- ・ 鳥羽市では、市教育委員会の職員を講師に、九鬼嘉隆について学ぶ授業を実施しています。

- ・ 松阪市では、松浦武四郎を通じ、アイヌの文化のすばらしさなどを広く人々に伝えようとした武四郎の姿から、差別を許さず、正しいと思ったことをやり通すことの大切さを学びます。(教育委員会)

■地域の伝統工芸について学ぶ取組

地域の伝統工芸品（四日市萬古焼、鈴鹿墨、伊勢型紙、伊賀くみひも、伊賀焼、伊勢根付など）を取り上げ、その美しさや卓越性、職人の願いや誇りについて考える取組を行っています。(教育委員会)

■地域の伝統文化から学ぶ取組

地域に伝わる年中行事（竈方祭り、麻加江かんこ踊り、松明調進行事など）の起源について、話を聞いたり、調べたり、考えたりすることを通じて、日本や地域の伝統文化の特色を学ぶ取組を行っています。(教育委員会)

■その他

- ・ 「ご当地検定」の取組が7市町（四日市市、亀山市、津市、南伊勢町、伊勢市、伊賀市、熊野市）で実施されています。(市民対象)
- ・ 多気町では、郷土資料館がかるたの句を小中学生等に募集し、「たきカルタ」を作成中です。(教育委員会)

2 高等学校における「郷土への思い」や「地域の担い手」を育てる取組

■地域ビジネス創出プロジェクト（SBP）

南伊勢高等学校では、地域に残りたい若者が地域に残れる仕組みをビジネスとして創ることをめざして地域ビジネス創出プロジェクト（SBP）を立ち上げ、南伊勢町のゆるキャラ「たいみー」にちなんだたい焼き「たいみー焼き」の商品化をめざすとともに、地元商品を詰め合わせたセレクトギフトの販売等に取り組んでいます。(教育委員会)

■地域の特産品を使った商品開発

- ・ あけぼの学園高等学校では、企業と連携して地元産の菜種油を用いたシャンプーとトリートメントを開発し、菜種油の販路拡大に取り組んでいます。
- ・ 明野高等学校では、地元特産物のひじきを使った商品開発等に取り組んでいます。(教育委員会)

■地元商店街との連携

津商業高等学校では、地元商店街と連携して開発した商品の販売、商店の経営コンセプトにあったWebページを設計してその効果を分析するな

ど実践的な電子商取引の研究に取り組んでいます。 (教育委員会)

■地元自治体等との連携

- ・ 相可高等学校では、多気町と連携して高校生レストランを運営し、地元食材を活用し地産地消に取り組んでいます。
- ・ 紀南高等学校では、地元警察との協働による交通安全啓発活動などの取組を行っています。 (教育委員会)

■地域の課題発見、課題解決

- ・ 昴学園高等学校では、慶応義塾大学等と連携し、生徒が町づくりにおける課題発見解決思考と当事者意識を持つことをめざして「まちばな（実在するまちづくりリーダーの疑似体験プログラム）」に取り組んでいます。
- ・ 尾鷲高等学校では、三重大学と連携し、フィールドワークやグループディスカッションを通じて地域の現状や地域資源についての理解を深め、そこから見えてきた課題の解決策や活性化案を発表する人材育成事業「尾鷲高校まちいく」に取り組んでいます。 (教育委員会)

■観光振興の取組への参画

- ・ 四日市商業高等学校では、菰野町に関する観光客を対象としたマーケティング調査と分析、商品開発等の企画提案に取り組んでいます。
- ・ 明野高等学校では、外宮参道ボランティアに参加して、「伊勢」を観光客に案内しています。 (教育委員会)

■高校生美容室

あけぼの学園高等学校では、校内に開設した高校生美容室での活動を通じて、コミュニケーション能力の向上や接客のノウハウの習得に取り組んでいます。 (教育委員会)

■食を通して学ぶ取組

- ・ 桑名西高等学校では、地域に伝わる行事食や郷土教育を取り上げ、食の持つ文化的、歴史的な側面について理解を深める取組を行う予定です。
- ・ 白子高等学校では、郷土料理の研究により、食の地域性を理解する取組を行う予定です。 (教育委員会)

■郷土に関する文芸作品等を通して学ぶ取組

- ・ 北星高等学校では、郷土三重の伝説や昔話、三重を舞台にした文学作品、三重県出身の文化人・文学者の作品に接し、郷土の歴史や文化に対する理解を深める取組を行う予定です。
- ・ 紀南高等学校では、郷土に関する小説や評論、詩歌などの文芸作品を鑑

賞することをとおして、郷土に対する理解を深めるとともに、自己の在り方や生き方を考える機会とする取組を行っています。(教育委員会)

■地域の自然、環境等について学ぶ取組

- ・ みえ夢学園高等学校では、郷土の地質や地形、動植物について見識を深め、自然保護や環境問題の重要性を認識し、対応していく能力と態度を育成しています。
- ・ 白山高等学校では、地域の自然への理解を深め、地域愛を育み、地域の活性化について研究を行うとともに、地域にまつわる説話・伝説・祭り・郷土芸能の理解を深めることによって地域への関心を高めるよう取り組む予定です。
- ・ 飯南高等学校では、郷土の自然について現地を見学し、郷土についての理解を深めるとともに、自然環境に恵まれた台高山系の保全についての知識と技術を身につける取組を行う予定です。(教育委員会)

■地場産業を通して学ぶ取組

飯南高等学校では、郷土の地場産業(伊勢茶、松阪牛、林業)について、体験や見学を通じて、知識や技術を学び、郷土の産業の良さを知り、理解を深める取組を行っています。(教育委員会)

■郷土の伝統文化を通して学ぶ取組

- ・ 伊勢まなび高等学校では、伊勢志摩地方の伝統文化、三重県の地誌、三重県の政治・経済、現状から三重の将来を考える取組を行っています。
- ・ 鳥羽高等学校では、郷土に伝わる民俗芸能を学ぶことにより、地域文化に対する意識の向上をはかり、将来、地域のリーダーとなる生徒を育てる取組を行う予定です。
- ・ 紀南高等学校では、御浜町周辺の歴史・文化・産業・伝統工芸などの学習を通じて、地元地域への理解を深め、伝統工芸の継承と地域に貢献できる人材の育成をめざす取組を行う予定です。(教育委員会)

■歴史を通して学ぶ取組

名張西高等学校では、郷土の歴史と関連した主題を設定し、史料研究を通じて興味関心を深めながら、史料を科学的に分析・判断する力を養い、歴史的思考力を育む取組を行う予定です。(教育委員会)

■日本版デュアルシステム

桑名工業高等学校では、学校での専門的な学習と企業での実習を組み合わせた日本版デュアルシステムに取り組んでおり、希望する生徒が年間を

通じて毎週1日、企業で実習を行っています。(教育委員会)

■インターンシップの推進

地域の特色を生かした職場体験やインターンシップ等を実施し、地域の産業に対する理解を促すとともに、望ましい勤労観・職業観を育成します。(教育委員会)

3 県内高等教育機関の魅力向上・充実

■高等教育機関における地方創生に向けた取組支援事業(県版COC補助金)

学生の確保、学生の県内への定着等に向けた県内高等教育機関による魅力向上・魅力向上の取組を支援します。(戦略企画部)

■「高等教育コンソーシアムみえ(仮称)」の設置

「高等教育コンソーシアムみえ(仮称)」を設置し、県内高等教育機関相互および県内高等教育機関と地域との連携による魅力向上を図ります。

また、その取組の中で、「三重を知る」共同授業の開発をめざします。

(戦略企画部)

■「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」への参画

三重大学が中心となり進める「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に参画し、本県の産業を担う人材の養成と魅力ある就職先の創出を図ります。(戦略企画部・健康福祉部・雇用経済部・教育委員会)

■地域と高等教育機関等の魅力発信

県内の全高校2年生等に向けて、三重県での暮らしやしごと、県内高等教育機関での学びの魅力を伝える冊子を配布します。(戦略企画部)

■学生が参加する地域活動情報の一元化

地域活動に関心がある学生と課題を抱える地域のさまざまな主体の情報を全県的に一元化し、マッチングを図ることにより、学生の地域活動への参画を一層促進します。(戦略企画部)

4 学びの選択肢拡大

■工業高校専攻科の設置

県内の工業高校が持つポテンシャルを活かしつつ、一層高度なものづくり教育を行う魅力的な教育環境を整備するため、四日市工業高等学校に専攻科を設置します。(教育委員会)

■大学収容力の向上

大学・学部等の新增設・再編に向けた検討を進め、高等教育における学びの選択肢の拡大を図るとともに、全国でも低位にある大学収容力の向上をめざします。
(戦略企画部)

5 県内への就職等の促進

■奨学金を活用した若者の県内定着の促進

若者の県内定着を促進するため、県内の南部地域等条件不利地域に居住すること等を条件に、大学生等の奨学金の返還額の一部を助成する制度を創設します。
(戦略企画部)

■U・Iターン就職等の促進

県内高校卒業生で、県外大学へ進学している学生のUターン就職の促進などに取り組みます。
(雇用経済部)